

011番、さいねんちよーず（広島自主勉）の「ともちゃん」です。今回の作品のプレゼンをさせていただきます。

課題文作成プレゼンテーション

福山での2度の講習会参加と、国語力の課題を経て、今回のウラコンペに参加させていただきましたが、もっとも頭を悩ませたのは、どういうストーリーをつくるかという点でした。

講習会では実際の建物のスライドを見せてもらいリアリティーの体感や、模範解答例づくりを指導を受け、建物を創るおもしろさを知ることができましたが、それらで身についた空間づくりをいかにプレゼンするか……。

今回のテーマでは、まず、「建築」という専門的な分野に属する人たちが利用する施設をいかに市街地、地域に馴染みのある建物にするかを考え、結果的に、それが建築教育に普及につながるのではないかと考えました。

さて、この「建築教育普及」という言葉の解釈ですが、「教育」という言葉から 建築に興味を持つ人を育てていく、ゆくゆくはその人たちがこの建築業界を盛り立てていく＝建築の普及につながる……そのように捉えました。

そこで主に学生と子供たちに焦点をあてることにしました。課題文としたときも、こういった一般の人の出入りがあるほうが施設的にさまざまな要素が盛りこめ、おもしろくなると考えました。

学生は、大学生を中心とした建築を学んでいる人たちと、現在建築の仕事に就きながら資格取得のために学んでいる人たちのふたとおりのグループとして考えました。課題文においては、大学生は一般の人として共用部間の利用を、受験生は自習室などの周囲から隔離させた室の利用を、主に考えています。このあたりが、この課題を解くにあたってのポイントとなります。課題文の部門のくくりも、本来、共用部をさらに3つくらいに分けて考えたのですが、一度完成した課題文を前に、再検討を重ねた結果、おおきくひとくくりにしてしまうことに決定しました。こうすることで、より「地域に開かれた」感が濃くなり、この施設の意味合いが強調されるとともに、問題を難解にさせると考えました。

さてもっともこの施設の核である（ウラ指導的という王様ゾーン！！）のが、施設の中央にドーンと居座るツリーハウス広場です。子供たちをこの施設にどのように誘い込むか……やまだんと議論を重ねて見つけ出した答えでした。「こういう子供のころわくわくしたよね」「小さい頃自然の中で遊んだ思い出はいつまでも色あせないね」そんな会話の中で、ふと思いついた「ツリーハウス」でした。施設が完成してから、つくりはじめるこのツリーハウス。未来に向かって成長し、進化していきます。そういう出題者の強い思い入れが課題文随所に何度も登場する「ツリーハウス」という言葉で伝わるのではないかと思います。

さて、敷地条件の図面をみると、ほぼ敷地中央にある既存樹。おそらく、はじめてこの絵をみた受験生

は、一瞬いやな気持ちになることでしょうか。コの字型？L型はつらいなあ……。などと思いながら課題文を読み進みます。読み進むと、この既存樹、建物の内部に取り込んで計画することがわかるのですが、これらが、混乱させるポイントになるのではと考えました。

この施設、あえて外部に広場的なものを設けなかったのですが、過去の問題では、外部広場が絡んで、建物形状が決定する場合が大半です。この建物、ほぼ正形でプランしたのですが、この形にしないと、この室の並びにたどり着けません。一見単純にみえますが、なかなか正形プランは作りにくいのではないかと考えました。

それから、周辺条件ですが、北側の商店街は、ここからの人の流れを意識してほしいということ。南側の公園は、この施設のもっとも必要な敷地条件なのですが、「誰もが立ち寄れる施設」として、通り抜けもOKという意味合いで、公園を配しました。ツリーハウス広場とのつながりももちろん深い意味を持ちます。実はこの課題文のポイントは、モールみたいに通り道になるエントランスホールと、敷地真ん中の既存樹、この2本柱です。南北の周辺条件とのつながりを読み、敷地のど真ん中にズバッと通り道と広場を設ける計画ができるかで合否が決まるといっても過言ではありません。この王様ゾーンと、あいまいな他の共用ゾーンとのつながり、階指定のない受験ゾーンと管理ゾーンの考え方、みなさんがどのように解いてくれるかが楽しみです。

以上です。

審査を、どうぞ、よろしくお願いします。